

なまろーど

The Name Road

ホームページアドレス
http://www.ranshokai.jpE-mailアドレス
info@ranshokai.jp発行所 高岡教区寺族青年会
住所 〒933-0878
高岡市東上関466
西本願寺高岡会館内
発行人 向田 永朗
編集者 広報部
発行日 2011年3月31日

巻頭言

鸞翔会
第十八代会長 向田 永朗

日頃より当会の活動に多大なご理解とご協力をいただき、また、昨年行った、第十八回ダーナ・バザーや、JVC（日本国際ボランティアセンター）との関係を築いたドキュメンタリー映画『国境を越えた人々』の上映会、寺族青年会結成三十五周年記念パーティーといった活動に、多くの方々にご参加頂きましたこと、重ねてお礼申し上げます。

二〇一〇年、寺族青年会は三十五周年を迎えました。過去の資料を読み返してみると、その時々の方々が、「どのよう活動をするのか」を真剣に模索していた様子から伝わってきます。会結成当初からの活動となるバザーの収益金

の寄付先も、時代による変遷があります。どういった趣旨で行うのか、しっかりと話し合った結果なのであります。

昨今はバザー収益金が減ってきていると指摘されます。それは事実です。しかし、その一方で、売り場には支援先の福祉作業所商品も並ぶようになりました。福祉作業所の方々と一緒に、事前準備もしています。おやつのアイスも一緒に食べています。決算書に数値としては表れませんが、大きな意義がそこにはあります。

何のためにやっているのかの共通認識を持って活動に取り組んでいる限り、当会は大丈夫です。年を経ると数字の増減に左右されやすくなりますが、それは、何のためにやっているのかを見失う要因となります。青年の会の皆さんは、そうならないよう話し合いをしっかりしましょう（年を経ると・・・のくだりについては、サン・テグジュペリ『星の王子さま』をご参照下さい）。

今年度、二回開催した連続研修会は、当会が何のために活動しているのかを問うものとなりました。一つは「JVCと関わっていく中

で何をしようとしているのか」、もう一つは「ハンセン病問題と関わっていく中で何をしようとしているのか」です。長年、当会が取り組んできたJVCへの協力・ハンセン病問題への取り組みについて、何のためにやっているのかを研修したのです。

共通認識を持って活動している限り当会は大丈夫だと記しましたが、それがないのであれば当会の意義は失われます。寺族青年たちがやりたい事を実現するための鸞翔会です。何のためにこの活動をしているのかを受け止めた上で、「いや、私のもっと別の事がしたい」というのであれば、それを私も受け止めます。

私たち寺族青年がどこに立って何に向き合っていてどうやって生きるのかを、共に話し合いたしましょう。十二月の臨時総会にて、退会年齢も延長されました（詳細は四ページ）。話し合う時間は充分あります。私たちはこれからも迷ったりつまづいたりを繰り返すかもしれません。しかし、それでも共に学び共に歩んでいく所存です。今後とも皆様のご指導ご助言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

二〇二〇年

全国真宗青年のつどい

平成二十二年八月六日・七日

楠 北斗

『FUTURE』というテーマを掲げて開催された「二〇一〇年 全国真宗青年のつどい 近畿大会 IN 神戸」。本願寺神戸別院と神戸ポートピアホテル、そして神戸の市街地を舞台にして行われました。

最初の集合地である神戸別院では開会式にて親鸞聖人七百五十回大遠忌お待ち受け法要が宗祖讃仰作法第三種（音楽法要）にて勤められました。大人数での勤行や華葩が機械を使って紙吹雪のように外陣の席へ散華されるという演出は非常に印象深かったです。

その後、神戸のみならず街を散策して参加者同士で交流を深めたり、グループワークを行ったりしました。真宗について改めて考えさせ、七百五十回大遠忌法要への意識を高める場として今大会は役割を發揮したのではないかと思います。



今回は、京都、西本願寺にて青年のつどいが開催されます。日程は二〇一一年八月六日（土）〜八月七日（日）です。大遠忌法要の記念大会でもありますので都合の付く方は是非参加しましょう。

基幹運動研修会

平成二十二年十二月二十六日

青木 哲隆

十二月二十六日に西本願寺高岡会館において、寺族青年会の基幹運動研修会が開催された。今回は社会問題でもある「自死問題」について研修を行った。特別に講師を招かず、すぐに分散会を行い、それぞれが自死について話し合った。その後、新湊組が昨年九月に取り組んだ「自死・自殺とともに考える」と題した公開講座や、それに向けての二回の研修会での講師の資料を使用して、自死の現状について学んだ。



分散会で話し合いが進められていくうちにわかったことは、参加した会員の知人や門信徒の中にも自死をされた方がおられるということ。それゆえに、会員それぞれが他人事では済まされないという共通の認識があるということであった。



私たちが自死問題を考えるとき、二つの立場の存在に気付く。自死に追い込まれるくらい悩んでいる方と、自死で大切な人を亡くされた方（自死遺族）である。双方に言えるのは、誰にも言えない深く、辛い悲しみがあるということではないだろうか。

先日、小学校時代の恩師と話す機会があった。先生は今、カウンセリングの分野に携わっておられ

る。私に「カウンセリングと仏教って似ているね。」と仰った。私は、「傾聴」と「如来の慈悲心」を思い浮かべた。

「傾聴」とはカウンセリングの分野の言葉で、その誰にも言えない深く、辛い気持ちを、しっかりと聴いて受け止める。その人の気持ちをそのまま無条件で、批判しないで聴く、ということであるという。「如来の慈悲心」とはまた、私の苦しみを我が苦しみとして如来が受け止め、私のところに寄り添ってくださることである。この先生の口癖は「人の話は耳で聞くな、目で聴け。」であった。真正面から、同じ目線で、受け入れる。すべてが繋がったように思えた。しかしながら、これらを実践するということは、決して簡単なことではない。

すべての人は苦しみを抱えながら生きていく。同じく苦しみを抱える私たちができることは何か？寺院に住む者として、僧侶として、人として、どう関わっていいのか、何ができるのか？今回の基幹運動研修会をスタートとして、継続して学んでいこうと思う。

浄青僧侶報告会と寺青結成 三十五周年記念パーティー

平成二十二年六月四日

富永 誠

六月四日、ホテルニューオータニ高岡で第二十一回浄土真宗青年僧侶連絡協議会（浄青僧）報告会と寺青結成三十五周年記念パーティーが開かれました。廣岡隆圓教務所長や歴代会長、OBや会員など四十二名に参加をいただき、浄青僧報告会では向田会長が、雨晴温泉磯はなびで行われた浄青僧高岡大会・翌年の本山総参拝の大会報告と歴代会長をはじめご協賛をいただいた方々へのお礼を述べ、二年間の浄青僧担当教区としての役目を無事果たせたとの報告をしました。本当に皆様の協力で二つの行事を開催できたことが、ありがたく思いました。

その後三十五周年記念パーティーに入り、参加されたOBの方々に、当時の活動や思い出等語っていただいたり、現在所属している会員への激励もありましたが、鸞翔会会旗が当日思わぬ形で注目を浴びたことにより、会旗にまつわる話が終始あったように思います。これからも大事に引き継いでいきたいと思えました。

和やかな中でのパーティーでしたが、浄青僧担当教区、結成三十五年という節目に出逢えたことに感謝したいと思います。



第二十二回浄土真宗青年 僧侶連絡協議会 （浄青僧）山陰大会

平成二十二年九月六日・七日

清水 了渉

第二十二回浄土真宗青年僧侶連絡協議会（浄青僧）山陰大会が、テーマ「お念仏の未来を語ろう」と題して、二〇一〇年九月六日・七日に島根県の出雲市、出雲ロイヤルホテルと石見銀山で開催されました。一日目は、石見銀山資料館館長の中野義文師と山陰教区大森組浄福寺住職高津真悟師のお話を聞かせていただきました。二日目は、朝から世界遺産の石見銀山へ行きました。石見銀山へは一度は行ってみたいと思っていたのでとても楽しみにしていました。銀山遺跡では実際鉱山の穴に入ったのですが、とても狭く、またとても涼しく、少し寒いくらいでした。銀山を歩いて感じたことは、銀山開発の苦勞と銀山がもたらす繁栄の両面を感じることができました。



今回は、半日の散策だったので、また今度、ゆっくりと行きたいと思ったのと同時に、自分の体力の無さに気付かされました。今度行くまでに、体力をつけていきたいと思いました。

退会年齢引き上げ

岡田 覚

去る二〇一〇年十二月二十八日、西本願寺高岡会館にて鸞翔会の臨時総会が行われ、所属会員の退会年齢を三十五歳から四十歳に引き上げる会則改正案が承認されました。

この会則改正案は、二〇〇六年度総会での「退会年齢を引き上げてはどうか」という会員からの提案を元にしたもので、所属会員にアンケートを回答してもらう形式を採りました。そして、そのアンケートの結果に基づき、九月十五日に行われた協議会において、退会年齢引き上げの是非を含む五項目についての結論を出しました。

その内容は、

- ①退会年齢を四十歳に引き上げる。
- ②次年度執行部は三十五歳以下より選出する。
- ③施行は承認後すぐに行う。
- ④四十歳までのOB、OGは希望者のみ復帰していただく。
- ⑤三十五歳以上の会員からも会費を徴収する。

以上、五項目です。今後は、これらの結論に従って会を運営していくこととなります。現在三十五歳の方はもちろん、すべての会員のご理解とご協力をいただきたく思います。

寺青連研

平成二十三年一月二十四日

岡西 好持

去る一月二十四日、西本願寺高岡会館に置いて寺青連研が開催された。第二回目となる今回の寺青連研は「ハンセン病問題ふるさとネットワーク富山」の行事である「大島青松園訪問」に同行した寺

青会員2名(向田永朗会長、岡西好持会員)による報告会という内容で行われ、スクリーンに映し出された施設各所の写真を解説するという形式で進行した。

報告の中では
①離島と言う立地ゆえに、交通手段が船しかない、現在も往來が不便である。

②その唯一の交通手段である官有船(無料)も国が廃止を検討し、民間委託されようとしている。

入所者の社会復帰のための施策という義務を負っているはずの国が、むしろ逆行したことをしようとしている。

③かつての隔離と差別の名残からか、現在も船の乗り場が地図に明記されていない。

④療養所内には強制墮胎による中絶胎児の供養碑があるが、プライベートな話でもあり、誰も話したがらないので、大島青松園では未だに被害実態がほとんど明らかになっていない。

⑤ハンセン病問題の現地学習として地元の小学生たちが施設を訪問しており、同席する形で青松園所長の話聞いたが、「当時

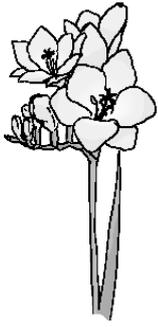
は原因が分からなかったから隔離は仕方なかった」「今も入所者がいるのは何故かと言うと、手足に障害が残っていて自立して生活ができないので、心配だからこの療養所で生活の面倒をみている」と、理不尽な隔離と差別の実態を覆い隠すかのような話であった。

と、以上のような報告があり、現在も数々の問題が山積していることが伺えた。



最後に向田会長が次のように締めくくり、閉会した。
「自分には関係のない事として

無視するのではなく、まず関心を持って欲しいと思います。無関心が理不尽な隔離と差別を温存してきたという一面があるのです。それに、この問題は決して過去の問題ではありません。数年前の新型インフルエンザの発生当初の患者に対する反応を思い出して下さい。ハンセン病問題とはハンセン病そのものが問題ではなく、国や私たちが宗門を含めた周囲がとった対応が問題の根本であり、それが数々の悲劇を生み出したのです。また、私たちの教団は慰問布教という形で関わりを持つ中でも不当な隔離や差別を見抜くことができず、かえって隔離政策の維持に協力することとなった。その過去に目を向けなければ私たちは同じ過ちを再び繰り返すことになるでしょう。来年も療養所訪問は行われず、実際に現地を訪れて初めて分かることもあるので、ぜひ皆さんにも積極的に参加していただきたいと思います。」



第十八回

ダーナ・バザー

平成二十二年八月二十二日

水上 賢志

十八回目を迎えるダーナ・バザーは、初めて本願寺井波別院を会場として開催されました。

過去数回のバザーでは、収益金をJVC（日本国際ボランティアセンター）並びに、県内の各福祉作業所に支援金としてお渡ししていました。今回のバザーでは、それらの支援先に加え、平成二十二年初頭、世界各地で地震が発生したこともあり、今苦しんでおられる被災者の方々へ支援金を送る事を決めました。また、時間とともに関心を失いつつある現状を憂い、マザーテレサのことは「愛の反対は憎しみではない 無関心です」を引用し、バザー開催を通して「いま起きている様々な社会問題に目を向ける」「無関心からの脱却」をテーマにあげて企画しました。

猛暑日が続くなかでの準備は大

変な作業でしたが、多くの人達のご協力によってどうにか開催までこぎ着けることができました。当日は天気にも恵まれ、多くの方々にお越しいただき、たくさんの方々の収益金をあげることができました。



今更説明するでもなく、ダーナとは布施の事です。実行委員長を務めさせていただいた私自身、この見返りを求めない布施の心でバザーに関われたかどうかは疑問が残る所です。ですが、多くの会員にとってこのバザー開催のなかで、福祉作業所の皆さんとの共同作業等を通し、団体と団体の関係から人と人の関わりになり、JVCの活動を知り、被災者の現状に目を

向けた契機となったことは、まぎれもない事実です。なにより、支援金を送ることによって一人でもいい、誰かの助けになったのなら、このバザー開催は大きな意味があったと思います。そして、こういったボランティアに携われる事自体が大変貴重な体験であり、この縁を与えられていることをもっと会員一同感謝すべきであると考えさせられました。

なお、この場を借りて、高岡教区各ご寺院、井波別院の関係者の方々、各福祉作業所、龍谷高校の生徒の皆さんのご協力に対して厚くお礼申し上げます。





手話サークル

代表 射水 梓

手話サークルでは昨年度に引き続き今年度も、ろう者劇団「おんによる座」の脇坂菊雄さんをご講師に迎え、年間を通して月に一、二度のペースで活動を行ってきました。

主な活動内容は日常的な手話の語彙を増やす練習と、手話コーラスなどです。

今年度は特に『いのちの歌』の手話コーラスに取り組みました。この歌は二〇〇八年から二〇〇九年にかけて放送されたNHKの連続テレビ小説『だんだん』の挿入

歌でしたのでご存知の方もいらっしゃるかと思います。

また十月からは新たなメンバーをお二人お迎えし、以前の復習も兼ねて、挨拶などの基本の練習も行っていました。しかしいざやってみると、基本の手話でさえ忘れかけているものも沢山あり、やはり日頃から使い続けていないと身につかないものだと痛感しました。今後はサークル員それぞれに何か目標を持って手話の勉強を続けて行ければ良いなあと思っています。そして手話に少しでもご興味を持たれた方はぜひお気軽に練習にご参加下さい。お待ちしております。

声明サークル

代表 岡田 寛

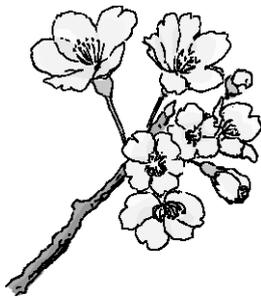
声明サークルでは、一年を通じて月二回程度のペースで声明の練習を行っています。

今年度も、七月の「井波別院永代経」へ向けての練習からスタートしました。出勤者は九名とやや少なめで全体練習の回数もわずか

でしたが、勤行が三年連続となる『無量寿経作法』ということもあり、本番では熟練した作法を披露することができたと思います。

また、十月に行われた真宗大谷派の仏教青年塾さんとの「東西声明交流会」では、お西は高岡流の葬場勤行、お東は法要で使う声明を、それぞれ練習しました。そして、十一月に高岡会館で行われた「親鸞聖人を語る夕べ」の音楽法要には、四名が結果として参加しました。

通常の声明練習はリクエスト主体で、基礎から実践練習まで幅広く対応しております。来年度も様々なシーンに合わせて、声明サークルを活用していただけたらと思っています。どうぞ気軽にご参加ください。



蓮華の会

代表 岡部 柰子

この会は寺族青年会の女性会員のサークルです。この会の特長は他のサークルと違い、会員の興味・関心のある内容の活動が出来ることです。

今年度は会員と公員のパートナーの方々の親睦に重点を置きました。まず会員からたくさんの提案をいただき、その中から九月に「ピザ作り」講習会、三月には昨年に引き続き「仏教讃歌を歌う」勉強会を行いました。

講習会・勉強会どちらにおいても一緒に楽しく活動する事によって、日頃の寺院生活での悩みなど自然体で話ができ、親睦も深まったように感じます。初めて参加された方もおられ、その方々とも、もっと親睦を深めたいと思いましたが、このような場を持つことができず残念に思います。

今後も会員はもちろん、会員のパートナーの方々も参加しやすい活動ができればと思っております。

新入会員紹介

新入会員の方にインタビューしました。

- ① 趣味または特技は？
- ② 苦手なものは？
- ③ 何か一言



射水組 光源寺
土合 晃祐さん

- ① 読書
- ② へび
- ③ 先日は鸞翔会のみなさんと旅行に行けてよい思い出になりました。これからもよろしくお願いします。



若神組 専龍寺
麻生 祐善さん

- ① サッカー・スノーボード
- ② ぬるい風呂・セロリ
- ③ お世話になります。



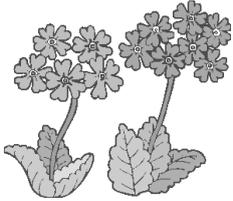
射水組 西導寺
数井 教道さん

- ① 趣味：読書
- ② 運動
- ③ 宜しくお願いします。



射水組 西導寺
数井 洋恵さん

- ① 寝ること
- ② 魚をまるごと食べる
- ③ 慣れないことが多いので色々教えてください。



第二十三期収益事業

(法輪せんべい販売)

耳浦 康真

今年度の法輪せんべい販売は、高岡教区の各組で勤修される親鸞聖人七百五十回大遠忌お待ち受け法要での販売に重点を置いて活動しました。その内容は、四月に五位組で小箱百七十三箱、五月に関野組で小箱五十五箱、八月に水波組で小箱九十一箱、伏木組で小箱五十箱の収益となりました。その他にも七月の井波別院での永代経法要で、寺族青年会出勤の時に小箱二十四箱が売れました。その他、各ご寺院への販売もあり、小箱では、今年度予算の五百箱に迫る、約四百九十箱が売れました。その他の特大、大箱、ばら売りなどの販売も高岡教区各ご寺院のご協力により、今年度の販売は順調でした。

しかし、今回のお待ち受け法要での販売活動や、寺族青年会員の各組への宣伝により、法輪せんべいの知名度が上がりましたがそれにともない、法輪せんべいを製作して下さっている萬松堂さんの製作できる限界もあり、報恩講シーズンに在庫切れを起こしてしまいました。これは、次年度への反省としたいと思います。





新入会員募集

高岡教区寺族青年会では
随時新入会員を募集しています。
気軽に参加しませんか。



ホームページ

<http://www.ranshokai.jp>

ホームページ
随時更新中!!



発会三十周年記念報告集
「共に生きるいのちとは」
—私の中で動き出す
ハンセン病問題— 発売中
一冊、五〇〇円。
お問い合わせは高岡教区教務所
☎二二一〇八八七または
<http://www.ranshokai.jp>まで。

法輪せんべいのご案内

法輪せんべいは、当会が販売する法輪マークと法語が印された一袋二枚入りのおいしいせんべいです。ご法要のお供えにお茶受けやご贈答などに幅広くご利用いただけます。(※表示してある価格は、いずれも販売価格です。)



パッケージはサクラと
若草色の二色です。



写真上は大箱(45袋入り) 2,000円

| 品目 | 袋数 | 価格 |
|----|-----|--------|
| 特大 | 170 | 7,000円 |
| 大箱 | 45 | 2,000円 |
| 小箱 | 16 | 900円 |

お申し込み、お問い合わせは 〒933-0003 高岡市能町1298 本誓寺内
耳浦 康真まで ☎/FAX(0766) 23-9822

編集後記

今回のなまもろーど36号の
発刊にて我々広報部の任期も
満了になります。振り返って
みると、ほんとうにあっとい
う間だったと感じます。

いつもいつも「なまもろーど」の編集に取り掛かるのは
ギリギリになるし、ホームペー
ジの更新は滞るしで、我なが
ら自分の適当さが改めて思い
知らされることがありました。
いつも急に原稿を依頼しても、
快くお受けくださった会員の
皆様ほんとうにありがとうございました。

最後に、大したリーダーシッ
プもとれず、面倒な仕事ばか
り押し付けてばかりだった広
報部のメンバーに心から感謝
の念をお伝え致します。2年
間お世話になり、ありがとう
ございました。

広報部長 篠島 敏信